



特集 分娩時非常事態 助産師はどう動く

1

分娩時 緊急事態発生時の 助産師の役割

砥石和子

杏林大学医学部付属病院 総合周産期母子医療センター 師長



POINT

- ① 分娩時緊急事態とは？
- ② 分娩時緊急事態に助産師は何をすればいい？
- ③ 分娩時緊急事態に備えてシミュレーションしておくことは？

はじめに

分娩には異常なく経過していても、突然正常経過を逸脱する可能性が常に潜んでいます。特に最近では、**ハイリスク妊産婦の増加**により、分娩時に非常事態が生じる可能性は高くなっています。その半面、診断・診療技術が進歩し、ハイリスク妊産婦は選

択的に帝王切開になるケースが増え、見方によれば助産師が分娩時緊急事態に対応する機会が少なくなったといえるかもしれません。

そこで本稿では、予測を立ててケアしていたとしても、いつ生じるかわからない分娩時緊急事態に助産師

ここに注目!

シミュレーションしましょう

知識としてわかっていても、すぐに行動にあらわせるとは限りません。頭が真っ白になって体が動かなくなってしまうこともあります。緊急事態を想定したシミュレーションを行い、行動をイメージ化しましょう。

はどのような役割を取り、どのように行動するべきかを考えます。

分娩時緊急事態とは？

ローリスクの妊婦であっても分娩時に医療介入を必要とすることは珍しいことではなく、日本産婦人科医学会母子保健部のデータには、**3%に緊急帝王切開術が、15%に分娩様式への介入が必要であったとあります。**では、分娩時緊急事態とはどのような状況をさすのでしょうか。

一口に分娩時緊急事態といっ

ても、様々な状況が想定されます。本稿では分娩時緊急事態を、**リスク因子の有無にかかわらず分娩経過中に、産婦および胎児に、生命に関わるような事態が起こる状況**と定義することにします。

分娩時緊急事態は突発的に起こり、変化が急激であることも少なくありません。助産師は分娩経過中、

産婦に常に寄り添い助産診断をもとにケアを実践します。**産婦の変化に一早く気づくことができるのは助産師しかいないと言っても過言ではありません。**産婦の変化を見逃さずに、適切な観察とアセスメントに基づいたケアを実践することは、その後の母児の予後に影響を与えることでもあります。

分娩時の助産師の役割

分娩時の助産師の役割について考えてみます。新版助産師業務要覧によると、助産師の分娩期の診断とケアの項目として、**産婦の健康診査・安全で快適な分娩・出血時の対応・子癇発作・新生児における心肺蘇生**があげられています。つまり、安全で快適な分娩ができるように産婦の健康診査を行い、分娩の進行状態や母児の健康状態を助産診断し、適切なケアを提供するというのです。そして、母児の生命を預かる助産師には、出血時や子癇発作、新生児に心肺蘇生が必要な緊急事態の発生時には素早い対応が求められます。

このように分娩時の緊急事態への対応は、助産師の重要な役割のひとつです。分娩時に緊急事態を引き起こす主な病態を**表1**に示します。助

産師には、各病態のリスク因子や前駆症状・発生機序および症状・観察項目・検査・治療などを理解したうえで分娩時のケアが求められます。

表1 分娩時緊急事態を起こす主な病態

分娩Ⅰ～Ⅱ期	
母児共に緊急事態	児の緊急事態
<ul style="list-style-type: none"> 常位胎盤早期剥離 子宮破裂 前置血管 低置胎盤・前置胎盤 分娩子癇 羊水塞栓症 	<ul style="list-style-type: none"> 臍帯下垂・脱出 胎児心拍高度持続性徐脈
分娩Ⅲ～Ⅳ期	
母の緊急事態	新生児の緊急事態
<ul style="list-style-type: none"> 癒着胎盤 産道裂傷 外陰腔血腫 弛緩出血 羊水塞栓症 	<ul style="list-style-type: none"> 新生児仮死